

Table with 12 columns (Month: 5, 6, 7, 8, 9, 10) and 4 rows (旬, 生育相, 水管理, 主な作業). Includes detailed agricultural management and pest control schedules.

※いもち病対策 コラトップ粒剤5 3~4kg/10a 多発生が予想される場合は、葉いもち発生前散布(初発10日前~初発時)が効果的。出穂5日前まで

土づくり

- 1. 地力増進のため、麦わら・稲わらは全量すき込みましょう。または、大地めぐみちゃん(堆肥)1t/10a 施用し有機物をおぎないましょう。
2. 土壌改良資材(ミネラルGまたは、珪鉄を100~200kg)を施用しましょう。

塩水選と種子消毒

○塩水選

Table with 4 columns: 種子の種類, 比重, 水10ℓに溶く量 (食塩(kg), 硫酸(kg)).

(食塩が硫酸かどちらか一方を溶く)



○種子消毒(もみ枯細菌病・ばか苗病・いもち病・イネシンガレセンチュウ)
水10ℓ(粉5.5kg分)当り
テクリードCフロアブル 50ml
(スミチオン乳剤 10ml)
の混合液に、24時間浸漬する。
※薬剤の量を厳守する。
※浸漬中に2回の攪拌を行なう。
○種子消毒後は水洗いせずに、その後停滞水につけ1日1回水を換え、芽出しを行なう。
※種子消毒の残液が河川や地下水などに流入しないよう注意する。

一般水田雑草除草剤使用基準

○初・中期一発除草剤

Table with 4 columns: 時期, 除草剤名, 10a当り使用量, 使用時期, 使用目安時期(移植後日数).

- ①除草効果を高めるため、湛水状態(3~5cm)とし、散布後7日間は落水・かけ流しはしない。
②移植時処理については、田植同時散布機で施用する。
③次のような事項は薬害が生じる可能性があるため注意しましょう。
・田面が不均一なほ場、軟弱苗や極端な浅植え等での使用
・強風下での使用
・フロアブル剤、ジャンボ剤の漏水田での使用(特にジャンボ剤については水深5cm程度を保つ。)

○中・後期除草剤

Table with 4 columns: 適用雑草, 除草剤名, 使用量, 使用時期, 使用方法.

- ①薬剤ごとに適用葉齢、水管理、使用時期が異なるのでラベル等をよく読んで使用して下さい。
②効果を高めるため3~5日間は状態を維持する。降雨があっても7日間は落水しない。

施肥基準

○ヒノヒカリ (kg/10a)

Table with 5 columns: 施肥例, 基肥, 施肥量, 穂肥, 施肥量.

○実りつくし (kg/10a)

Table with 5 columns: 施肥例, 基肥, 施肥量, 穂肥, 施肥量.

※穂肥の2回目は1回目の7日後。

品種特性表

(出穂期・成熟期はJAみい調査データ)

Table with 12 columns: 品種名, 出穂期, 成熟期, 稈長, 穂長, m2当り穂数本, 耐倒伏性, 玄米千粒重g, 10a当り収量kg, 品質, 食味, 耐病性(いもち, 白葉枯).

※実りつくしは、いもち病に弱いので適期防除に努める。

農薬使用上の注意

- ① 粉剤は散布後、殺菌剤で6時間、殺虫剤で3時間以内に降雨にあった場合は効果が劣るので天候に注意して散布しましょう。
② 農薬によるミツバチへの危害防止のため、稲の開花期に農薬の使用は避けましょう。
③ 安全・安心な農産物を確保するため以下のことに注意しましょう。
・この暦は、令和4年1月時点の登録情報に基づいて作成しています。
・農薬の登録内容は随時変更されますので、使用時はラベルを確認し、使用基準を遵守しましょう。
・周辺作物へ農薬の飛散がないように注意しましょう。

※収穫前に栽培日誌の提出をお願いいたしますので、農薬による防除を行った場合必ず記入して下さい。

米は全量JAへ

JA米の要件
・銘柄が確認できた種子により生産された米穀
・登録検査機関で受検した米穀
・生産履歴記載が確認された米穀
「JA米とそれ以外を区分してJAに出荷しましょう」
令和4年2月作成